

## 表紙, 目次, 通信, 雑報

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/38186">http://hdl.handle.net/2297/38186</a>

大正三年二月一日發行

# 十全會雜誌

全澤醫學專門學校十全會



第九十卷  
第二號  
(第九十七號)

# 十全會雜誌 第十九卷第二號 (第九十七號) 目次

## ○原著及實驗

●先天性梅毒ニ於ケル肺炎ニ就テ。

京都帝國大學醫科大學病理學教室

金澤醫學專門學校醫學士 糸川角次郎

●生理學上ヨリ見タル男性美。

東京慈惠醫學專門學校

醫學博士 生沼曹六

●膀胱乳嘴腫ニ就テ。

新潟醫學專門學校第二外科教室

助手 川上操一

●甲狀腺機能亢進症ニ伴フ下痢。

武者素行

●能力ノ根源。

櫻井小平太

## ○通信

●清水憲策氏通信。

## ○校內雜報

●參學年級會。●圖書月報。

## ○叙任及辭令

●內閣。●文部省。●金澤醫學專門學校。●石川縣。●海軍軍醫學生。

## ○人事

●宮田教授の留學。●林教授の歸朝。●米村吉太郎氏。●北川光雄氏。  
●竹內善松氏。●張敞郷氏。●會員名簿追加。●改姓。●自宅開素。  
●轉居會員。●居所不明會員。

## ○會告

●校外特別會員會費納付調書。



# 通信

# 校内雜報

## ●清水憲策氏通信

(四十二年卒業。開業。十全會宛)

(前畧)小生も杏雲堂辭職以來三井慈善病院眼科醫局に勤務致し候へしが去る七月中旬郷里に歸り眼科胃腸病科専門として開業致す事に相成候處幸に門前雀羅を張るを免れ居り候然し田舎に歸れば別段珍らしきものも無之只トラホームと胃腸加答兒のみ見る機會多くして徒に時間を空費する如き心地せられ此分にて書籍と親しむ能はずんば純然たる所謂開業醫となり果つるならんぞ存じ候小生の近所には母校の出身者甚だ多く本郡のみにて目下八名を算し候されば各連絡を付けて歩調を一にすべく毎年一回相會して懇親を厚ふする計畫有之候未だ皆若木の生育最中とも申すべき状態なれどやがて金澤種の美しき花も着け實を結ぶ杏林を西武藏野に見るならんぞ先輩及び同窓諸兄の前途を囑望致し居り候先は終に臨み益々御自愛の上母校否我國醫學の爲め御盡力あらん事乍陰奉祈候

埼玉縣大里郡用土村

清水憲策



## ●參學年級會

參學年級會同級會は去る十二月十二日後後一時より金澤病院會議室に開かれた。外では物凄しい醫主風がホブラの椅を鳴らし、寂しい冬の雨が灰色のスパイヤーに降り濺いでゐるのに、此處のみは暖き級會の團樂とて、笑聲歡語一堂に滿ち満ちてほろほろと春も溢れる様にも思はれた。校中の權威であり、肝腦であると自負してゐる吾等の團樂は決して平凡ではなかつた、燃ゆる様な元氣たぎつ溢れる様な血潮はごうして顯はれずに止むべきであらうか、發しては眞情の吐露となり、至誠の獅子吼となり、高調の笑聲となり、果ては歎むを知らざる拍手となり、一分又一分、その高調を増し其上、慈愛溢る、如き各先生の有益なる御教訓を辱ならしたる事とて、滿堂悉く誇りと欣喜と希望との華かな芬圍氣に包まれ享樂の感興は正にその極限値に達した様にも思はれた。

- ▲開會の辭 岡 本 君
- ▲予の希望 岡 本 君
- ▲參年級は我校の「ヘルツ」なり 田 村 君
- ▲記念事業に就て 北 村 君
- ▲吾級は全校の覇たり 今 越 君
- ▲所 感 森 本 君
- ▲所 感 飛 見 君
- ▲諸君一警戒せよ 岡 本 君
- 田 中 君

▲感慨一束

▲所 感

諸君は實に吾校の「ヘルツ」である、然し諸君よ、諸君はたゞに大正貳年一三年度の三年級に於てのみ吾校の「ヘルツ」たるのみならず更に四年級に進級せられても尙更に本校を卒業せられても永久に吾校の「ヘルツ」を奮闘せられん事を

▲諸君に望む

下平先生

「ボリクリニック」、「クリニック」に出てよ、勇まじき元氣を以て獨逸語を修めよ。抱負は須らく大にせよ、吾青年時代に於てランゲンベック何のその、ヒューテルなどは屏の如しと豪語せり、而して今日の位置は如何、故に抱負は必ず大なるべし、然し抱負のみ大なりとも不可なり、其抱負に向ては其抱負に應じたるだけの努力と覺悟を要す、バルテンホエ、ル曰く Das wahre Leben liegt im Streben と諸君は絶えず努力奮闘して生活を意味あらしめ抱負の域に達せよ。

▲醫學生の最後の目的

佐々木先生

醫學生の最後の目的は何であらう、と質問を發せられ譯々として達するに難き最後の目的を叙述せられ、其手段としては「クリニック」、「ボリクリニック」は實に須要中の須要なるものであると説明せられ、遂に其須要なる臨床講義に忠實ならざる諸君はまさに醫學生最後の目的を忘れしかと責められた。

▲郵便切手の話

阿部先生

郵便切手に就き實に興味ある話をなされた。

▲雜 感

松原先生

諸君は元氣があるぞ聞いてゐたが本日其偽りならざるを見て實に喜ばしく思ふ。本日のみならず卒業しても益々元氣が必要である。世調は近き將來に於て醫者にも生活難の襲來は免かれ難い、然る時大なる勇氣に依ての

み之れに打勝つを得るのである。實に人は勇氣なくして生活し得ないのである。諸君は大なる勇氣、大なる元氣を以て世調の軌道に進まればならぬ。

宮田先生

武道會試合にて醫專校選手は他校に比し龍頭蛇尾の感無きにもあらざりしや尙一層の勇氣を養へよ。

▲閉會の辭

岡本君

斯くして愉快なる残り惜しい感興を懷いて場外に出ると紫錦臺の日は全く暮れて冬の夜の雨は寂しく冷めたく心許なく降つてゐた。何處かで七時の音を聞いた。(M, M生)

●圖書月報 (其六)

寄贈圖書並に芳名左の如し。  
一、増補醫事斷片 田中祐吉著  
二、E. Feer, Lehrbuch der Kinderheilkunde.  
三、M. Runge, Geburtshilfe.  
四、Lehrbuch der Psychiatrie.  
von Biswanger-Ottmar-Hoche-  
Siemering-Westphal-Wollenberg.  
神經衰弱症  
組織學アルバイト  
醫 化 學  
新纂外科總論 第一卷  
一、近世無機化學 池田菊苗譯  
二、近世病理學總論 今祐著  
三、福原傳染病及血清學總論

松原先生  
佐口先生  
照内 豐殿  
下平先生  
購 買 會

四、衛生學 宮入慶之助著

謹て御厚意を感謝し永く本館の記念とす。

自十月一日至二月三十一日 閱覽總員千五百九十五名

内譯

特別	受驗	醫四	醫三	醫二	醫一
十月	五	四	二九三	二六七	一二七
十一月	二九	一	一六一	一六三	九〇
十二月	三六	一	一四五	一七八	六六
備考					七

一、受驗生は十月限りにて十一月卒業と共に特別會員とならる。

二、特別會員の閱覽數漸次増加を視るは熱心なる研究的態度の一斑を窺ふに足る可く我が圖書室の最も光榮とする所なり是れ蓋し金澤病院内に勤務せらるゝ先輩諸彦の大半を占めらるゝは特に記して前途を祝す。

三、第一學年生諸君の字數上極めて僅少なるは未だ本館所在の不詳の爲なる哉果して然れば本館は金澤病院内、内外一部研究室を以て此れに當つ莫くば記憶せられたし。

四、一二年級生徒の三四年級生徒に比し小數的傾向あるは或は本館の所在にして且つ閱覽に不便の爲ならん哉然り吾人は目下普汎の最好の適所なきを遺憾とす唯だ親愛なる諸君の赤誠に訴ふるのみ。

五、閱覽者減少の傾向は前表の明示する所にして各學年恰も共通なり一見悲觀す可きに似たれども敢て意に介するに足らず何者十月より十一月十一月より十二月の漸進的少數なるは一つには寒氣の増激と一つには冬期休業歸省者あるに基くものにして石川縣立圖書館入場人員統計表も畧同一の減少あり、之れ地方的關係の然らしむるものにして天命人事の共に俱に止む得ざるの外なしと斷念せざる可からず加之

本館閱覽者諸君中名簿に記入せられざる事あるは被ふ可からざる事實なり故に此が救濟策として圖書室はスチームを通じて室温以上を保つものなれば益々北國勇兒の枉逸する元氣を發揮せられよ尙ほ入場の際ひ假令形式的繁雜の愚を學ぶに似たれども必ず閱覽者名簿に署名せられん事を乞ふ。

最後に不學鈍才なる圖書係を指導鞭撻せられ採長補短以て十全會有終の美を濟せられん事を希望す。(村山生)

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

叙任及辭令

●内閣

大正三年一月七日

階叙高等官五等

金澤醫學專門學校教授正七位 加藤 靜 雄

階叙高等官五等

金澤醫學專門學校教授醫學博士 松 原 三 郎

階叙高等官六等

金澤醫學專門學校教授從七位 脇 坂 慶 造

●文部省

大正三年一月十二日

金澤醫學專門學校教授 宮田篤郎  
耳鼻咽喉科學研究ノ爲メ滿二箇年間獨國及塊洪國へ留學ヲ命ス

●金澤醫學專門學校

大正二年十二月十五日

山科龜義

解剖學授業補助ヲ囑託ス

月手當金參拾圓給與

全 十二月十九日

金澤醫學專門學校醫學士 田中吉左衛門(大ニ)

雇申付 月俸金貳拾圓給與

衛生學及細菌學副手ヲ命ス

●石川縣

大正二年十二月二十七日

金澤病院醫員ヲ命ズ

婦人科勤務(十二給俸)

松本乙男(大ニ)

●海軍軍醫學生

本校生徒志願者中醫學科第四學年石川縣出身山

下賢吉全科第二學年全縣出身水島亨の兩氏大正二年十二月二十二日附全

軍醫學生を命せられたり。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

人事

●宮田教授の留學

本校教授宮田篤郎氏は多年本校及金澤病院にありて外科及び耳鼻咽喉科學の講義と實地とに従事せられ其學識の深くして診療の巧妙なること既に世評に高き所なり今文部省の推選に當り更に獨塊に航して一層學界の奥蘊を極め見聞を廣め錦上更に華を添へんとす思ふに氏の偉大なる体格と頑強なる健康とは吾人の意を安んぜしめ其不絶の精力は以て研究に便にし其周到なる細心は見聞を詳にし絶大の業績斯して待つべし氏は今二月二十八日神戸發瀛汽北野丸にて出帆せらるべし切に氏の前途を祝す因に全氏は最初ハルレ大學に止り専ら耳鼻咽喉科學と頭部外科とを研究せらるゝ豫定なりと云ふ。

●林教授の歸朝

先きに本校にありて診斷學と藥物學とを擔任せられたる教授林篤氏は一昨年初秋獨逸國に渡り最初ストラスブルグ大學に止り小兒科學をツエルニ博士に藥物學をシュミードベルグ博士に就て專攻し次でハイデルベルグ大學に轉して尙ほ全科を專攻し終に歐洲の各大學と著明の病院を巡視し去一月十二日神戸に無事到着せられ暫らく東京に止りて去一月二十五日日出度金澤に歸校せられたるに因り全日午後四時金谷館に於て其歡迎會を開く會する者百二十餘名の多數に達し飯森ドクトルの歡迎の辭によりて開會し高

安校長の音頭によりて林教授の健康を祝し非常に盛大を極めたり全氏は在歐二ヶ年間全く壯健に研學せられ一滴の薬をも口にせられざりしは吾人の深く喜ぶ所なり今や吾人は此博學高識。靜思熟慮。前途最も多望の良教授を得て吾校の藥物學は益々異彩を放つべく此温良恭謙。技能熟達。將來甚だ有爲の好臨床家を得て吾金澤病院の小兒科は愈々盛に發展せん。こゝ眼前に見ゆるが如し。

●米村吉太郎氏 (二四)は昨年末金澤市市會議員改選に際し高点を以て當選せられ且つ市參事會員にも互選せられたり。

●北川光雄氏 全氏(三十九年度卒業)は卒業後前橋市神明町前橋天真堂病院にありて研學中なりしが此度大志を抱き獨乙國に渡航して目下左の箇所に研學中なり吾人は斯の如くして少壯有爲の士の續々渡航して其智識を廣め其識見を高くし益々學界のため母校のため勇進せられんことを祈る。

Dr. M. Kitagawa

Petenhofenstrasse 20 / 1.

München, Deutschland.

●竹内善松氏 (大元)は岡本小兒科治療院に醫員たりしが今回金澤病院内科一部に研究生として研究中。

●張 翫郷氏 (大正二、支那留學生)卒業後眼科學皮膚科學を各醫局にて傍觀研究せられしが今回歸國の上直隸省立醫學專門學校に教官として教鞭をさるる。

●會員名簿追加

去十二月發刊の特別會員名簿録中に左の二氏を誤脱せるにつき茲に改めて記入す。

金澤市長町川岸

加藤 慶 三 (甲醫)

金澤市野町四丁目二十八

喜多禎次(大元)

●改 姓

舊 姓 名	新 姓 名
山田 茂樹	並河 茂樹(四)
佐々木 信	栗林 信(四)
池口 道夫	太田 垣道夫(四)
八田 三郎	大塚 三郎(大元)

●自宅開業

秋田縣仙北郡六郷町	栗林 信(四)
石川縣能美郡鳥越村別宮	堂坂 友作(四)
秋田縣南秋田郡下新城村	宇佐美 保久(四)

●轉 居 會 員

東京市小石川區丸山町十一	小山田 基(三)
京都伏見騎兵第二十聯隊附	伏田 金三(三)
金澤市野田寺町四丁目四十三	土屋 重俊(元)
石川縣大聖寺郡立江沼病院	七五三 龜吉(全)
靜岡縣濱松市三組一三六	伊藤 春馬(四)
愛知縣八名郡小吉田村	莊田 芳根(全)
東京府北豐島郡東鴨字仲	春山 盛道(三)
秋田縣仙北郡六郷町	栗林 信(全)
朝鮮慶尙北道英陽邑	太田 卯三郎(全)
隱岐知夫郡黒木村	勝部 方策(全)



群馬縣山田郡相生町六丁目  
 札幌區南二條東一丁目奥田方  
 石川縣能美郡鳥越村字別宮  
 秋田縣南秋田郡下新城村笠岡  
 廣島市天神町四二、山科まさ方  
 橫須賀海兵團軍醫  
 京都府下宮津町宮津病院  
 大阪步兵第三十七聯隊第四中隊  
 京都伏見輜重兵第十六大隊附

●居所不明會員

御存知の諸君は御手数ながら本會へ御一報下され度御願申上候  
 但し姓名の上に◎印あるは最近に不明となりたる會員諸君なり

舊住所

東京市芝養生園  
 大阪市東區京橋三丁目  
 長野縣上水内郡長野町  
 宮山縣魚津町  
 石川縣羽咋郡高濱河崎醫院内  
 石川縣能美郡小松町字京町  
 朝鮮京城旭町二丁目  
 朝鮮大邱同仁病院  
 軍醫  
 豫備工兵第九大隊  
 兵庫縣神戸病院

小暮喜一(豊)  
 岡久雄(豊)  
 堂坂友作(全)  
 宇佐美俊久(豊)  
 平泉泰藏(全)  
 小俣幹翁(全)  
 太田垣道夫(豊)  
 糸川角次郎(大元)  
 島豐喜(大元)

園崎純次郎(元)  
 森岡惣太郎(三)  
 ◎須田嘉三郎(三)  
 ◎前田豊作(全)  
 ◎小林五佐(全)  
 松村四郎(三)  
 富久尾溪(全)  
 西尾岱抱(全)  
 宮崎稻作(全)  
 西村順八(三)  
 本城熊三郎(全)

門司市西川端町二丁目  
 獨乙國ミユンヘン市  
 高知縣高岡郡須崎古市町  
 近衛野砲兵聯隊  
 新潟縣中頸城郡新井町  
 兵庫縣柏原病院  
 久留米衛戍病院附  
 北海道小樽慈惠病院  
 廣島縣高田郡吉田町  
 福井縣立病院  
 札幌北一條四丁目  
 東京市神谷町  
 東京市神田區駿河臺井上眼科病院  
 東京市芝區田村十九富田三十郎方  
 篠山步兵第七十聯隊附軍醫  
 伊豆國伊東町玖須美  
 新潟縣長岡市長岡病院内  
 新潟縣長岡市長岡病院内  
 鳥取市鳥取病院  
 大阪市北區絹笠町同生病院  
 金澤市弓ノ町九  
 廣島縣加茂郡中黒瀬村丸山  
 北海道釧路釧路港得濟病院

戸井源吾(三)  
 松久祐馬(全)  
 藤井茂(全)  
 木下節三(全)  
 鈴木政治郎(全)  
 吉武安男(全)  
 ◎内海友七(全)  
 ◎江藤幹(全)  
 瀧澤武藏(豊)  
 五井康平(全)  
 楠正之(全)  
 松本文二(全)  
 河崎正雄(全)  
 ◎河合勝(全)  
 ◎吉田繁治郎(全)  
 ◎池谷運平(全)  
 ◎藤井最正(四)  
 ◎穂刈光平(全)  
 ◎折笠圓隆(豊)  
 ◎三上儉次(四)  
 ◎荻野鶴治(全)  
 ◎室田茂人(全)  
 ◎須藤卯太郎



# 會 告

● 自大正貳年十一月廿九日校外特別會員會費納付調査  
至大正參年一月廿三日

金額	期 限	氏 名
金參圓	自大正貳年度 至大正四年度	松下嘉右衛門君
金貳圓	全	鶴 來 政 雄君
金貳圓	自大正四年度 至大正元年度	羽 田 公 太 郎君
金貳圓	自大正元年度 至大正貳年度	吉 田 敬 一 君
金貳圓	自大正貳年度 至大正四年度	丹 羽 玄 純君
金參圓	全	水 口 哲 三君
金參圓	全	安 達 敬 智君
金參圓	自大正元年度 至大正三年度	大 塚 三 郎君
金參圓	自大正三年度 至大正四年度	藤 岡 孫 喜君
金參圓	全	並 河 茂 樹君
金貳圓	自大正貳年度 至大正參年度	德 木 千 秋君
金貳圓	自大正參年度 至大正四年度	佐 藤 彌 一 郎君
金參圓	全	小 池 勇 助君
金參圓	全	小 池 才 一君

金壹圓	大正二年度分	加 藤 慶 三君
金參圓	自大正貳年度 至大正四年度	中 澤 百 祐君
金參圓	全	淺 井 爲 孝君

## 廣 告

拜啓寒冷の候に御座候處益々御多祥欣賞の至りに奉存候然れば恩師高山教授は明治二十六年十一月七日を以て我金澤醫學專門學校教授の職に就かれ爾來歳を算ふる事實に二十星霜と相成申候此間先生の心を我校の發展に盡し力を専ら醫學の開鑿に瘁され我學界に貢獻せられし事多大なるは世人の知る處に御座候茲に生等相謀り左記の方法により金澤に於て先生の在職二十年記念祝賀會を舉行し以て其の功勞に酬ひ先生の健康を祝せんま欲し申候冀くは左記の條項御承知の上奮て御賛同あらむ事を奉願上候

大正二年十二月一日

金澤醫學專門學校内

高山教授在職二十年祝賀會委員

- 一、大正三年四月 日祝賀會を本校大講堂にて開催の事
- 一、記念品贈呈の事
- 一、贖金額は壹圓以上二月末日迄に御送金相成度事

一、贖金は郵便爲換又は振替貯金番號(大阪一九一五五番)に御拂込みの事  
 (振替貯金御利用の際は裏面に二十年祝賀會費と御記入なされ度事)

一、御送金の宛名は本校内山本兵三郎宛の事

一、別々領收書を發送せず決算報告を十全會誌にて發表して之れに代ふる事

一、贈呈の物品及其他の方法に就ては委員に御一任相成度事  
 以上

●石川教授へ贈呈紀念品贖金受領報告

第一回 (一月二十二日) (迄ニ受領ノ分)

一 金壹圓也	關川 敬治殿	一 金壹圓也	大橋 忠俊殿
一 金壹圓也	加納 景成殿	一 金壹圓也	徳久 恒治殿
一 金壹圓也	花岡 佐太郎殿	一 金壹圓也	植木 信親殿
一 金壹圓也	山村 鏐二殿	一 金壹圓也	戸谷 慈一殿
一 金壹圓也	山脇 泰治殿	一 金壹圓也	井原 悟殿
一 金壹圓也	阿波加 憲吉殿	一 金壹圓也	草野 佐二郎殿
一 金壹圓也	小出 貞次郎殿	一 金壹圓也	城谷 隣賢殿
一 金壹圓也	池田 菱吉殿	一 金貳圓也	島 誠郁殿
一 金壹圓也	石橋 四郎殿	一 金壹圓也	李 廷權殿
一 金貳圓也	大武 國治殿	一 金壹圓也	金田 友三郎殿
一 金壹圓五拾錢也	秦 親真殿	一 金壹圓也	並河 茂樹殿

一 金壹圓壹錢也	木谷 義太郎殿	一 金貳圓也	土屋 重俊殿
一 金貳圓也	牛塚 榮太郎殿	一 金壹圓也	額 又大郎殿
一 金壹圓也	八田 智証殿	一 金貳圓也	村松 純吉殿
一 金五圓也	石坂 直次郎殿	一 金貳圓也	塚崎 茂殿
一 金參圓也	林 龍門殿	一 金壹圓也	熊澤 清隆殿
一 金壹圓五拾錢也	蚊野 才三郎殿	一 金壹圓也	吉尾 開道殿
一 金壹圓也	大井 良八郎殿	一 金壹圓也	張 敏郷殿
一 金參圓也	井上 松三郎殿	一 金貳圓也	中村 欣一郎殿
一 金參圓也	福岡 喜洋殿	一 金五圓也	佐口 榮殿
一 金壹圓也	天野 長重殿	一 金壹圓也	長久 開一郎殿
一 金壹圓也	萩野 茂次郎殿	一 金壹圓也	重田 稔殿
一 金壹圓也	高田 信弘殿		

計金六拾八圓〇壹錢

一、贖金額ハ金壹圓以上ニ願度候  
 一、贖金ハ大正三年三月末日迄ニ御送附相願度候  
 一、贖金ハ振替貯金(大阪三三六一七番)或ハ郵便爲替ニテ御拂込ニ願度候  
 一、贖金ハ金澤醫學專門學校内佐口榮宛御送附相願度候  
 一、領收書ハ別ニ發送致サス十全會雜誌ニテ發表致スベク候  
 一、贈呈ノ物品等ニ就テハ委員ニ御一任相願度候